

日本グループ・ダイナミクス学会会報



ぐるだいい

ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

第 2 6 号  
(2004年3月25日)

発行所：〒565-0871 吹田市山田丘1-2  
大阪大学人間科学部 渥美公秀研究室  
日本グループ・ダイナミクス学会  
電話 & Fax: 06-6879-8066  
発行人：渥美公秀 編集担当：廣岡秀一

---

### 実験社会心理学研究がオンラインジャーナルに

---

2004年2月より、「実験社会心理学研究」がオンラインジャーナル化されました。

サービスを提供するのは、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE) です。J-STAGEは、日本国内の科学技術情報関係の電子ジャーナル発行を支援するシステムです。J-STAGEがJSTリンクセンターと連携することにより、J-STAGE上で公開されている論文は、ChemPort、PubMed、CrossRefを経由し、海外の様々な電子ジャーナルサイト上の論文と相互にリンクされます。この事業は国立情報学研究所 NII (旧文部省学術情報センター NACSIS) とも連携しています。

これによって「実験社会心理学研究」は、インターネット・オンラインで、誰でもどこからでも論文本文を参照することが可能になりました。現在は、最新号第43巻1号のみの掲載ですが、順次、バックナンバーも追加される予定です。

以下のページからご参照ください。

実験社会心理学研究・OLJ : <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jjesp/-char/ja/>  
J-STAGEトップページ (日本語) : <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>  
J-STAGE掲載誌一覧 : [http://www.jstage.jst.go.jp/browse/\\_journalist/-char/ja#](http://www.jstage.jst.go.jp/browse/_journalist/-char/ja#)  
独立行政法人科学技術振興機構 (JST) : <http://www.jst.go.jp/>

---

### (重要) 事務移行関係 (会費納入など)

会長 渥美 公秀

---

2004年度より、学会事務の委託先を、財団法人日本学会事務センター関西から、中西印刷株式会社に移行します。委託内容は、会員管理や会計業務など、概ね、これまで学会事務センターにお願いしていた業務に加え、ホームページやメーリングリストのサーバーの維持管理も含んでおります。

なお、学会誌の機関購読のみ、これまで通り、日本学会事務センターへの委託を継続することとしました。これは機関購読先への配送契約の残存期間があと2年あること、および、機関購読は学会員の名簿管理と連動しないことなどを考慮した暫定的な措置であり、2年後に見直すこととします。

ご承知の通り、中西印刷株式会社には、学会誌の印刷をお願いしております。今年度からはオンラインジャーナルの管理もお願いしております。今回の事務委託により、様々な事務作業と学会誌の発行を一カ所で行えることとなり、名簿管理の一元化による経費節減など、従来より効率的な学会運営が可能となりました。

移行期に当たりますので、ご注意いただきたい点を列挙いたします。これ以外の事柄で  
ご不明な点がございましたら、どうぞお気軽に学会事務局（渥美研究室）宛にご一報いた  
だきますようお願いいたします。

学会誌第43巻2号は、従来通り学会事務センターから発送されます。

2004年度の会費の請求は、中西印刷による会員情報の確認を経たからの作業となり  
ますので、2004年5月中旬以降になります。会費請求の時期と事務移行の時期が重  
なりますので、会費請求のご連絡が例年より少々遅くなりますことをご承知おき下  
さい。

最後になりましたが、日本学会事務センター様には、これまで様々な事務作業におきま  
してお世話になりましたことを誌面を借りましてお礼申し上げます。

2004年4月1日から、入退会、住所・所属等変更、会費納入、機関誌・ニュースレタ  
ーの未着等のご連絡は、以下にお願いします。

中西印刷株式会社 学会部（日本グループ・ダイナミクス学会担当：岡田）

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 e-mail: jgda@nacoss.com

---

### 実験社会心理学研究 第43巻2号掲載決定論文

---

#### < 一般論文 >

##### 【原著論文】

- 深町珠由・伊藤由香・中川正宣・前川眞一：人間関係における動態的相互作用の実験研  
究 - 動態的相互作用における個人特性の測定 -  
東村知子：サポート校における不登校生・高校中退者への支援 - その意義と矛盾  
加藤謙介・渥美公秀・矢守克也：ロボット介在活動における物語生成 - 有料老人ホーム  
におけるペット型ロボットを用いた活動の事例 -  
浅井千秋：派遣技術者の専門コミットメント、組織コミットメントおよび職務のモチベ  
ーションの関係とその形成要因

##### 【資料論文】

柳澤さおり・古川久敬：人事考課に及ぼす評価目的の影響

#### < 書評 >

村本由紀子：P. B. スミス & M. H. ボンド（著）「グローバル化時代の社会心理学」

八ッ塚一郎：C. ウィリッグ（著）「心理学のための質的研究法入門 創造的な探求に  
向けて」

---

#### 「実験社会心理学研究」最新編集状況（2004年3月17日現在）報告

投稿論文総数：	31編
43巻2号掲載決定論文：	5編
審査進行中論文：	24編
審査者審査中：	14編
著者改稿中：	10編
（審査員選出中：	0編）
（取り下げ論文：	0編）
掲載不可論文：	2編

---

43巻2号掲載論文の受理までの平均月数は8.98ヶ月、掲載不可を含む初回審査平均月  
数は3.38ヶ月でした。2003年は22編のご投稿をいただきました。なお、2004年になっ  
て2編のご投稿をいただきました。引き続き、皆様の積極的なご投稿をお願い申し上げます。

---

## 実験社会心理学研究優秀論文賞選考について

---

日本グループ・ダイナミクス学会は、前年度刊行の「実験社会心理学研究」掲載論文の中から、「優秀論文賞」を授与しています。選考規定によりますと、編集委員をメンバーとした選考委員会を立ち上げ、編集委員長を除く選考委員の互選により選考委員長を選出するという手続きをとることになります。この規定に基づいて選出した結果、今年度は、大坊郁夫先生（大阪大学）に選考委員長をお願いすることとなりました。

大坊先生、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なおこれに関するスケジュールは以下のようになります。

- ・ 3月上旬：投票用紙発送予告 + 立会人指名
- ・ 3月中旬：投票案内 + 投票用紙発送
- ・ 4月上旬～中旬：開票、結果報告メール
- ・ 学会前日：選考委員会
- ・ 総会：発表
- ・ 懇親会：表彰

選考に関与される編集委員の先生方、どうぞよろしくお願い申し上げます。

---

## Summary of AJSP Submissions in 2003

---

AJSPのEditorを務めておられるKwok Leung先生から、2003年の編集状況についてご報告を頂きました。

14 articles were accepted, with 7 belonging to the special issue of SARS

8 articles are under revision

13 articles are under first round review

43 articles were rejected

Total number of submissions: 78

Overall rejection rate: (14/57) 75%.

We are able to provide feedback to the vast majority of authors within 6 months, and we are now shooting for a three month turn-around time. All major journals are compressing their turn-around time, and we definitely should do the same.

We should have our ranking in the Social Science Citation Index for the first time later this year, and I think we should do quite well. I see a gradual improvement in the quality of the papers we publish in AJSP, and I hope this trend will continue.

---

## 第51回大会開催せまる

51回大会委員長 南山大学 津村俊充

---

日本グループ・ダイナミクス学会第51回大会の大会委員長を務めさせていただきま、南山大学の津村でございます。本学でお引き受けし、準備の都合上大会開催が2004年度になりました。大会開催に向けて、名古屋地区の社会心理学研究者を中心に準備委員会を構成し、充実した大会になるように会議を重ね、その準備も最終段階に入りました。

同封されています大会プログラムにもありますように、本大会では、ロング8件、院生セッション4件、ショート28件、English19件、ポスター54件の、合計113件の発表が予定されています。また、本大会にて初めて企画された“インタラクティブ・プログラム”は、2日間にわたり計12件が行われます。

“インタラクティブ・プログラム”では、従来の自主シンポジウム形式とともに、実習形式を含む参加型ワークショップが約半数行われます。K.Lewinが我々に残したもの - ラ

ボラトリー・メソッドによる体験学習、とりわけTグループとアクション・リサーチ - が今も伝統として息づくこの南山大学で、インタラクティブな関わりと学びが学会員に生まれることを願いながら、大会準備をさせていただいております。

大会が開催される会場の南山大学D棟は、心理人間学科が開設された2000年度に完成しました。休憩室になっているD51教室は、広いじゅうたん教室で、名古屋市内が一望できるとともに、晴れた日には御岳から伊吹山まで望めることができます。

本年4月には教育ファシリテーション専攻という名称の大学院が南山大学に誕生し、学校教育などさまざまな教育現場でグループダイナミクス研究の応用実践を行うことができる人材育成が始まる記念すべき年でもあります。

また、愛知万博開催を前に、愛知の環境整備の一環として地下鉄の新線が誕生し、2003年12月に地下鉄「名古屋大学」駅が開通いたしました。南山大学は名古屋大学のすぐ隣りに位置しております。南山大学へのお越しは、新たに完成した地下鉄「名古屋大学」駅をご利用ください。

ぜひ、名古屋、南山に、足を運んで頂き、ハード面においてもソフト面においても、新しく誕生しようとしている息吹を感じていただくとともに、学会員の研究の相互研鑽の場になることを願っております。

それでは、ゴールデン・ウィーク明けの5月8日(土)・9日(日)に、名古屋の南山大学にて、皆様のお越しをお待ち申し上げております。

---

## 2003年度第4回 常任理事会・常任編集委員会議事録

---

日時：2004年3月9日 13:00～16:30

場所：キャンパスプラザ京都 第3会議室

出席者：渥美・大橋・大淵・廣岡・山口・矢守(敬称略)

欠席者：吉田

### 常任理事会

#### 【報告事項】

#### ワーキンググループから

#### 1. 大会関係

廣岡常任理事より、第51回大会前日(5月7日)の諸会合の時間について、常任理事会13:00～、優秀論文賞選考委員会14:00～、理事会16:00～で行うことが確認された。

矢守常任理事より、研究委員会報告として、院生セッション申込者の状況について報告があった。

#### 2. 雑誌改革

渥美会長より、機関誌の改革に関する理事からの意見について報告があった。

また、大会2日目に行う予定である雑誌改革に関するワークショップ(WS)について討論した。その結果、WSは、常任理事会主催として行うこととなった。この件に関しては、常任理事からの意見を取りまとめ、渥美会長が、理事MLに報告することとなった。

矢守常任理事より、上記WS用に、5月8日11:40～13:00、60～80人収容可能なスペースの確保を、津村大会委員長に打診済みであるとの報告があった。

#### 3. OLJ・編集システム

渥美会長より、OLJを公開したところ、会員から好評との連絡があったとの報告があった。

渥美会長より、編集システムのオンライン化については、引き続き、慎重に検討を進めていくとの報告があった。

#### 4. 事務移行

渥美会長、矢守常任理事より、中西印刷訪問について、報告があった。

機関誌の定期購読関係業務は、引き続き学会事務センターに依頼する。具体的には、学会事務センターが、一定部数の機関誌を買い取り、発送を担当する契約となる。

総務事務局担当者より指摘のあった会則改定（案）について、説明があった。討論の結果、会則はあまり限定しすぎる表現は避けたいと、改正が必要と考えられる会則については、渥美会長が、事前に常任理事MLに一覧を流したうえで、次回の常任理事会、理事会を経て、総会にかけることが確認された。

学会員への事務移行に関するアナウンスは、中西印刷より、会員全員に対してデータ内容を確認するハガキが郵送されるとの報告があった。また、廣岡常任理事が、JGDA Flash および、ぐるだニュース第26号を通じて通知することとなった。

5. 倫理規定について  
山口常任理事より、日本心理学会等の動向を見据えつつ次回常任理事会までに、倫理問題に関係して、検討すべき問題の所在についてたたき台を出すとの報告があった。
6. 選挙・選挙改革について  
大淵常任理事より、外国籍および海外在住会員の増加にともなう選挙のあり方の見直し、会長の選挙権に関する指摘があった。討議の結果、常任理事は、日本在住の会員から選出する。学会細則第6章第19条「常任理事の定数」については、「常任理事は7名とし、うち1名は会長がこれにあたり、会長を除く理事の互選により4名を選出する」、以上2点を申合せ事項として、理事会に報告することが異議なく了承された。また、次期選挙は、平成16年12月頃行い、平成17年1、2月決定を目処に、進めるとの報告があった。
7. 諸学会連合会等への対応  
渥美会長および大淵常任理事より、認定心理士の資格認定（日本心理学会から諸学会連合会への移行）に関する報告があり、GDとしては、当面は動静を見極めつつ必要な時期に検討することが確認された。

#### 総務

1. 渥美会長より、第52回大会は、平成17年3月後半頃、神戸で開催し、京大と阪大の合同編成チームを中心にすすめていく予定であることが報告された。また、公開シンポジウムをNPOに委託する案が提示された。
2. 渥美会長より、名誉会員の推戴について、該当者の確認がなされた。
3. 渥美会長より、科学研究費補助金について、「実社心研」「AJSP」の2件の申請を行ったことが報告された。
4. 渥美会長より、会員異動状況に関する報告があった。

#### 広報

1. 廣岡常任理事より、ぐるだニュースの電子化は、事務移行の混乱期を避け、様子をみながら進めるとの報告があった。
2. 廣岡常任理事より、インターネットサーバーの管理運営を、一括して中西印刷に委託するとの報告があった。ドメイン名は、groupdynamics.or.jp（その後規定により、groupdynamics.gr.jpに変更）。また、ホームページ担当は、2004年度も引き続き、三浦麻子先生に依頼する予定であるとの報告があった。

#### 会計・事務

渥美会長より、三隅賞の定期預金は、解約せずに、中西印刷へ事務移行するとの報告があった。

#### その他

故松村康平名誉会員のご逝去について、数ヶ月経過してから事務局に連絡があったとの報告があった。会員への周知は、ぐるだニュースで対応することとなった。

## 常任編集委員会

### 【報告事項】

1. 渥美会長より、優秀論文賞選考経緯について、報告があった。
2. 「実験社会心理学研究」第43巻2号は、一般論文5本、書評2本の構成で、3月末発刊を目処に、進めているとの報告があった。
3. 審査状況について報告があった。また、開講期限の延長は、1回限定とし、長期改稿遅延者については、再投稿を促すことが了承された。長期にわたる審査遅延に関しては、主査の交替も対応策として考慮に入れることが了承された。

### 【審議事項】

1. 投稿論文の連名者が非会員の場合の取り扱いについて審議をした結果、入会を促すことを確認した。ただし、会則に明文化する必要はないとの意見に至った。
2. 投稿者に所属変更が生じた場合、原則としては、投稿時の所属を明記し、(註)で対応することが確認された。
3. オンライン公開に関しては、受稿通知発送時に投稿者に確認することとなった。

### 【その他】

渥美会長より、著作権について、「社会学評論」からの問い合わせ事項について、報告があった。

次回日程は、2004年5月7日13:00～ 南山大学で開催することが確認された。

---

### (第43巻第1号)の訂正ならびにお詫び

編集委員長

---

実験社会心理学研究第43巻第1号に掲載された沼崎誠・工藤恵理子論文の受稿年月日が誤って記載されました。これは、編集事務局における最終校正段階で生じたミスであり、編集委員長の責任です。著者および読者の皆様には謹んでお詫び申し上げ、下記のように訂正させていただきます。また、この訂正は、第43巻第2号にも掲載させていただきます。ちなみに、オンラインジャーナルには正しい受稿年月日が掲載されています。

ページ	誤	正
51	1998年8月12日受稿 2003年4月30日受理	2002年7月12日受稿 2003年4月30日受理

---

### 会員移動

< 2003年12月分まで >

---

< Web上にて省略 >

## 訃 報

本学会の名誉会員であられました松村康平先生が、2003年11月19日にご逝去されました。ご生前のご功績に敬意を表し、また、グループダイナミックス学会への多大なご貢献に衷心から謝意を表し、謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

---

### 広報担当からのお知らせ

---

JGDA\_Flash : グルダイでは【日本グループダイナミックス学会・広報（速報）メールマガジン】(JGDA\_Flash)を運用しています。これは、速報性が要求される情報・ニュースを会員みなさまにe-mailでお知らせしようとするものです。現在登録されている会員は約600名です。グルダイ会員みなさまの中には、会員名簿にメールアドレスを掲載されていない方や最近アドレスを取得された方、またアドレスを変更された方なども少なくないのではないかとと思いますが、登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等は、グルダイ広報メールマガジン運営担当マスターのアドレス

[jgda\\_flash@psycho.edu.mie-u.ac.jp](mailto:jgda_flash@psycho.edu.mie-u.ac.jp)

までお願いいたします。また、新刊案内や研究会案内等のニュース記事も大歓迎いたします。同アドレスまでお送りください。なお、これまでに配信されたFlashは、

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/cgi-bin/jgda/magbbs.cgi>

で閲覧可能です。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jgda/>

---

## 事務局からのお願い

---

実験社会心理学研究の特集テーマ募集  
「実験社会心理学研究」には、グループ・ダイナミックスや社会心理学に関連する特集を掲載します。特集は、読みごたえのある論文3編程度で構成します。特集についての企画をお持ちの会員は、企画の趣旨、特集論文の概要等をまとめた企画書（A4版1 - 2枚程度）を、編集委員長に提出して下さい。企画の採択については、常任編集委員会で審議、決定します。

なお、「実験社会心理学研究」は、特集の掲載によって、一般投稿論文の掲載に大幅な遅滞が生じないことを重視しています。企画を提出される方は、この点をお含みおき下さい。詳細は事務局までお問い合わせください。

### 実験社会心理学研究の書評候補募集

事務局では、実験社会心理学研究の書評の候補となる著作を随時募集致しております。よい本がありましたら事務局までご推薦ください。

---

## グルダイ学会関係連絡先

---

### 学会事務局

大阪大学大学院人間科学研究科 渥美公秀研究室

〒565-0871 吹田市山田丘1 - 2 大阪大学大学院人間科学研究科

TEL・Fax: 06-6879-8066 E-mail: atsumi@hus.osaka-u.ac.jp

投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見

大阪大学大学院人間科学研究科 渥美公秀研究室

〒565-0871 吹田市山田丘1 - 2 大阪大学大学院人間科学研究科

TEL・Fax: 06-6879-8066 E-mail: atsumi@hus.osaka-u.ac.jp

住所・所属変更、その他お問い合わせ

中西印刷株式会社 学会部（日本グループ・ダイナミックス学会担当：岡田）

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入ル

TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 e-mail: jgda@nacos.com

ぐるだいニュースの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿

新刊案内や研究会案内等のニュース記事、公募情報など、を募集しています。

E-mail: jgda\_flash@epsycho.edu.mie-u.ac.jp までお送りください。

また、登録、メールアドレスの変更、配信停止の連絡、マガジンに関するご希望・お問い合わせ等も、同アドレスまでお送りください。もしくは、

三重大学教育学部 廣岡秀一研究室

〒514-8507 三重県津市上浜町1515 三重大学教育学部

TEL・Fax: 059-231-9329

---

（編集後記） 南山大学で開催される日本グループ・ダイナミックス学会第51回大会は「インターラクティブ」をテーマに準備が進められています。津村大会準備委員長をはじめ準備委員の皆様、よろしくお願ひ致します。会員の皆様、名古屋南山大学でお会い致しましょう。2004年4月から事務管理体制が大きく変更されます。念願の事務一本化に向けて動き始めることとなります。新体制での事務作業が軌道に乗るまでには多少時間がかかるようで、皆様には少々ご不便な思いをさせていただきますが、滅多にあることではありません。皆様のご理解を頂ければ幸いです。ぐるだいニュースの編集・発行の仕方について議論され始めてからすでに2～3年が経とうとしていますが、まさに「インターラクティブ」に学会の在り方について多くの会員が意見交換できるような機会が必要になってきているのではないのでしょうか。事務の一本化、インターネットの利用可能性の広がりにとともに、広報や会員の皆様との会話の取り方について、今以上の環境を整備するための基礎条件が整ってきたと言っていいでしょう。4月になれば中西印刷による会員情報の確認作業が始まります。会員異動については確実にお知らせ頂きますようお願い致します（廣）。

---

< ナカニシヤ出版広告挿入 >

< 北大路書房広告挿入 >

< S P S S 社広告挿入 >